

Rapid Prototyping 特集 Part3

RP機エントリー モデル バイヤーズガイド

〈取材協力者〉

- 伊藤 拓氏
[アステック 代表取締役]
<http://www.astec-japan.com>
- 金津鬼氏
[造形作家・メディアアーティスト]
<http://www.kanetsuki.com/>
- 相馬 達也氏
[ツクルス 代表取締役]
<http://www.tkls.co.jp/>
- 水野 操氏
[ニコラデザイン・アンド・テクノロジー
代表取締役社長]
<http://www.nikoladesign.co.jp/>

(50音順)

〈対象機種、取材企業〉

- Envisiontec社, PERFACTORY
(鈴峯, <http://www.suzuho.com/>)
- Objet社, Allaris30
(アルテック, <http://www.altech.co.jp/>)
- Stratasys社, uPrint
(丸紅情報システムズ,
<http://www.marubeni-sys.com/>)
- Z Corporation社, ZPrinter 450
(Z Corporation Japan, <http://www.zcorp.com/jp/>)
- 3D Systems社, Pro Jet HD3000
(イグアス, <http://www.i-guazu.co.jp/>)

(アルファベット順)

以前は、3次元データが普及していなかったことや、データ変換の複雑さ、出力モデルの精度などさまざまな問題を抱えていたため、RP機を敬遠していた技術者もいるのではないだろうか。現在では、上記の問題が解消しつつあり、モノづくりの現場でも活用し得るツールとなっている。本特集Part2でも紹介した通り、RP機メーカー各社とも特徴は大きく異なり、どの点を重視するかは、ユーザーの趣向や使用用途に応じて選択する必要がある。しかし、初めてRP機を活用しようと考えているユーザーは、明確な選定基準がないことが現状だ。そこで、Part3ではモノづくりに

関わる技術者や映像・画像・ゲームクリエイターなど3次元データに関わる企業・団体・メンバーで構成されている「3次元形状を活用する会(3D-GAN)」のメンバー4人にご協力いただき、ユーザー目線で出力モデル、装置やソフトの使い勝手などさまざまなポイントから評価していただいた。対象機種は、Envisiontec社のPERFACTORY、Objet社のAllaris30、Stratasys社のuPrint、3D Systems社のPro Jet HD3000、Z Corporation社のZPrinter 450の5製品。価格は異なるものの、比較的導入しやすい、各社エントリーモデルを対象に、最も安い材料で造形した。